

評価基準

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

1. 教育理念・目標

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
瀬古	・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校ホームページ、パンフレット・学生募集要項にて公表。 ・新入生にはオリエンテーションやホームルーム等で、保護者には学生を通して周知。 ・在校生や教職員には学生生活の手引きを岩崎学園ポータルサイト(iポータル)から配信し、周知。	・継続
	・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・カリキュラム、シラバスを作成し、学生に提示。 ・カリキュラムは臨床実習施設にも配布。 ・シラバスは岩崎学園のLearning Management System(学習支援システム;以下、スタログ(LMS))で時間割と共に配信し、閲覧が可能。 ・教育目的・目標ならびにアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて、学生生活の手引き・学生募集要項で公開している。	・アセスメント・ポリシーを作成し、前期中に公開予定。

2. 学校運営

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
渡邊	・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的開催されているか。	4	・理事会、経営管理委員会、所属長会議等の各種学園横断会議は適宜実施されている。 ・本校では教務部運営会議・教務部会議・各学科会議・各業務会議・卒業判定会議・進級(成績)判定会議・学生募集会議、朝礼を開催している。	・継続
	・事業計画が定められているか。	4	・業務毎に1年間の業務計画を定め、実行した。	・選ばれ続ける学校であるために、学生募集・教務の双方において、ゴール(アウトプット)から逆算し、教職員一人ひとりの行動(インプット)を変革する。また、成果につながる仕組みづくりとプロセスの検証を徹底する。
	・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・適切な予算計画が策定され、予算の範囲内で運営している。 ・稟議案件については、成果指標を設定し、半期ごとに達成状況を定量化・レビューし教育投資を行った。	・前例踏襲に陥ることなく、投資対効果や収支差額を意識した学校運営を徹底する。 ・年度予算に基づき成果指標を設定し、達成状況およびプロセス(インプット)を検証する。
	・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。 ・働き方支援制度を拡充し、仕事と家庭の両立を目指し、安心してキャリアを築ける職場環境を整備した。	・就業規則や学園の規定に基づき、男性職員も育児休業を取得しやすい環境を整え、働きやすい職場づくりを進める。
	・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・学校基本調査に合わせ年に1回更新した。	・継続
	・業務分掌は適切か。	4	・経営管理部門、教務部門ともに期初に業務分掌を決め、業務を遂行している。 ・全学的な情報セキュリティ管理体制を構築し、情報漏えいやシステム障害などのリスクに対して迅速かつ確実に対応できる体制を整備した。また、本校内においてもセキュリティ担当者を選出し、運用体制を強化した。	・業務分掌に基づく業務遂行に加え、各担当が主体的に新たな企画を立案し、成果の検証にも取り組む。 ・管理職は職員の多様な働き方、ワークライフバランスの実現に向け、特定の職員に業務が集中しないように、業務の調整やマネジメントを行う。
	・人事考課は制度化されているか。	4	・人事考課を冬期賞与時、年度末に実施し、学園本部に提出した。職員の自律的なキャリア形成支援および適材適所の人員配置を目的として、年末に上司と部下によるキャリア面談を実施した。 ・学園全体の等級・職位、期待役割が明確となり、基準に基づいた人事考課が実施されている。	・学園の人事・人材育成施策に基づき、教職員のスキルおよび行動がさらに発揮できる職場環境の整備、組織風土の醸成、職員教育を推進する。 ・本校教員を対象としたルーブリックを整備し、授業力や学生指導の向上に繋げる。
	・出勤が適切に管理されているか。	4	・勤怠管理システムにて適切に管理がされている。さらに、上司・所属長による勤怠管理を徹底した。	継続
	・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載し、管理している。	・継続
	・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・12月に職員を対象としたストレスチェックを実施した。 ・学園全体で定期的に衛生委員会が開催され、職員の健康確保に向けた調査審議を実施した。	・健康診断は2026年4月2日に実施済
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	・全学の取り組みとして、生成AIを活用した業務の効率化を推進している。各種リサーチ、書類作成、レビュー、各種データ分析、画像作成等に利用している。	・学園にて情報システムにおけるセキュリティ対策やインフラ整備を強化。 ・学園方針に基づき、生成AIの活用を推進する。議事録作成、シラバス作成等でも活用し、業務の効率化と質の向上を図る。 ・教職員のAI・ITリテラシーの向上、スキルアップを図る	

3. 教育活動

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
シラバ	・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	4	・スタログ(LMS)にて、シラバスを配信している。また、iポータルやGoogleworkSpaceを活用し、ホームルーム情報や総合演習のフィードバック、一部学内実習などを行っている。 ・配信時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。 ・シラバスは奨学金新制度に対応しており、さらにスタログ(LMS)での配信に合わせたものを導入している。	・スタログ(LMS)として、シラバス公開を継続する。 ・シラバス配信時、科目担当教員および担任が学生に対し、その内容と活用方法について周知・指導を徹底する。
	・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PT140・OT136単位(指定規則101単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚労局に提出済である。 ・2020年度新入生から、新指定規則に対応するカリキュラムを実施している。2026年度入学生より、PT・OT学科でカリキュラム時間・科目名の変更など部分改定の届け出を提出した。	・2026年度入学生においては、基礎分野授業の削減等を行い、理学療法学科136単位、作業療法学科は134単位(指定規則101単位を充足)を修得単位数として設定している。 ・引き続き、学生の学習効果やカリキュラム・ポリシーとの整合性、学生募集に向けた効果を確認する。
	・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学生には、入学時オリエンテーションにて、対面で説明を行った。 ・在校生にはスタログ(LMS)で周知した。	・入学生には、入学時オリエンテーションにて、対面で説明を実施。 ・在校生にはスタログ(LMS)で周知。 ・科目担当教員は、授業内で周知できていることを確認する。

田中	ス・カリキュラム	・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	・学生募集イベントで実施している体験授業や高校での出張授業等から高校生の現状を把握している。 ・入学試験時の個別面接において、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員3名が県立高校3校(横浜南陵・金沢総合・金井高校)にて評議委員を務め実情を確認した。 ・2026年度入学予定者に入学前教育プログラムを実施し、受講状況と課題提出状況を把握した。	・昨年度より教職員3名が県立高校3校(横浜南陵・金沢総合・金井高校)の評議委員となっている。引き続き高校生や高校の実情を確認する。
		・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・「学校関係者評価委員会」および「教育課程編成委員会」にて、情報を収集した。 ・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。 ・臨床実習施設と連絡を取る際に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。	・今年度も同様に連携する。 ・臨床実習施設を対象に臨床実習の指導方法等について、Webアンケートを行い、結果を分析する。 ・実習前OSCEの結果活用について、今後アンケート調査等を検討する。
		・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しが行えたか。	4	・5年ごとに実施される指定規則改定に向け、新カリキュラムにて運営している学年(2020年度1年生)から情報収集を行っている。「学生募集」「学生状況」の観点から、一部カリキュラムの変更・追加などを行った。	・指定規則改定を鑑みながら、引き続き社会のニーズや学生の質にあわせた新しいカリキュラムの内容について検討する。
		・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・スタログ(LMS)でのシラバスに記載・学生へ周知している。	・継続
杉山	教育力向上	・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けている。	・引き続き同様の方針で実施する。
		・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。	4	・新入教員は先輩教員の授業を見学し、自身の授業を組み立てる際の参考にした。 ・後期授業アンケートはスタログ(LMS)を使用し、中間を11/17~11/28、終了後1/19~2/6に実施した。回収率は中間94.9%、終了後96.7%であった。集計結果は、教員がすべての教科を確認できるため、全体の傾向を把握することができる。そのうえで、中間結果を踏まえて非常勤講師を含め、担当教員から学生へフィードバックが行われた。	・授業アンケートは、半期ごとに2回実施予定であり、非常勤講師を含め、担当教員が自身で結果を確認し、学生へのフィードバックを行う。 ・アンケート実施時期を調整する。 ・前後期ともにアンケート後に授業内で学生にフィードバックを実施する。 ・教員間で授業見学会を実施予定。教員同士が授業を公開し合い、教育手法の共有や改善につなげる。
		・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・後期の研修会として、9/8、9/19に高校見学会を実施し、高校生の学習状況、特性を理解し、教職員の指導力向上を促した。 ・11/10に基礎カリサーチ報告を実施し、基礎学力と学習状況を客観的に把握することで、フォローが必要な学生の早期発見につなげた。 ・3/9にハラスメント講習会を実施し、何がハラスメントに該当するかを全員が知ることで、問題が深刻化する前に相談・対処できる手段について理解を深めた。 ・3/9に高校教諭による講演会を実施し、高校生を取り巻く環境と状況・講師による授業での工夫点について理解を深めた。 ・外部講習会については、対面開催を含め参加を促した。	・研修会・学会については、引き続き、参加や発表を促す。
		・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	4	・3/9に非常勤講師ミーティングを実施。非常勤講師と学生に関する情報交換を行った。特に1年生については、学生状況の把握に努めた。 ・非常勤講師の資料印刷や授業準備等を教員が行っており、コミュニケーションをとる機会が増加した。	・クラス担任は、継続して非常勤講師と学生に関する情報交換を行う。特に新入生について、学生状況の把握に努める。 ・授業準備等をサポートする機会を利用し、一層の情報交換・共有に努める。
石井	臨床実習	・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。	4	・12月に次年度の実習受け入れ人数確認文書の発送した。その際に、実習契約書を同封した。 ・契約書の管理方法について検討中である。 ・新規施設確保は継続する。	・次年度の実習依頼を4月下旬に発送予定。 ・契約書(紙面)の管理を適切に行う。 ・実習費用のインボイス制度への対応として、請求書対応を主として回収率の向上を図る。 ・実習施設からの連絡について、学科内での共有、ダブルチェック体制を確立する。 ・引き続き新規施設の確保を図る ・イレギュラー対応施設、実習費用の適切な対応を進める。
		・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	4	・新規施設登録について、PT学科は30施設(4月開始12施設、6月開始1施設、8月開始17施設)、OT学科は9施設(4月開始2施設、6月開始1施設、8月開始6施設)の申請を行った。	・2027年度の新規実習施設の申請書類回収を進める。
		・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	4	・2026年度4年次臨床実習指導者会議は、3/6にオンラインにて滞りなく実施された。参加率は理学療法学科 74.7% (86/116施設)、作業療法学科88.3% (53/60施設)。 ・各学セミナーでは、理学療法学科では外部講師によるペップトークに関する講義とグループディスカッション、作業療法学科では内部教員によるMTDLPの講義を実施した。	・2026年度3年次臨床実習指導者会議は、6/27にオンラインにて実施予定。 ・5月末に、2027年度実習依頼書類を発送予定。
田中	情報公開	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3	・受験希望者、保護者には、授業を公開している。 ・各種ポリシー、カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開している。 ・岩崎学園7校共通の授業アンケートを実施し、学園内で結果を公開しているが、外部公開には至っていない。	・受験希望者、保護者には、授業を公開する。 ・各種ポリシー、カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開する。 ・「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開する。 ・岩崎学園7校共通の授業アンケートを実施し、学園内で結果を公開している。外部公開は継続して検討する。

4. 教育成果

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
杉山	資格 ・学生全員にパラスポーツ指導員が認定されたか。	4	・新4年生PT学科学生のうち所定の外部実習を終了した学生19名については、中級パラスポーツ指導員資格が認定された。その他のPT学科学生とOT学科学生は初級パラスポーツ指導員資格が認定された。 ・障がい者スポーツ指導員(P.T学科:中級、O.T学科:初級)認定校の申請に基づきカリキュラムを進めた。 ・第18回神奈川県障害者スポーツ大会のサポートスタッフとして学生10名が参加した。 ・PT学科の一部学生は、中級申請に必要な外部実習80時間取得に向け各種ボランティアに取り組んだ。	・中級パラスポーツ指導員の資格取得(P.T学科の一部学生)に向け、地域高齢者対象の体力測定会を前期に計画(4/27、7/5に予定)している。 ・ワールドトライアスロン横浜大会、インクルーシブ水泳大会等に有志PT学科学生がボランティアで参加し、中級パラスポーツ指導員資格取得を目指す。 ・各種イベントを案内し、学生の主体的な参加を支援する。
	卒業研究 ・卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。 ・卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。	4	・両学科とも教員の指導を受け、卒業研究発表に向けた取り組みを進めた。	・担当教員指導の下、学生が卒業研究を進める。
武田	国家試験 ・国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策(学生オリエンテーション、特別講義など)を図る。	4	・全学生に対して個別担当による面談を実施。進捗が思わしくない学生については学科で共有し対応を検討した。 ・過去10年分の国家試験分析結果を反映させた補講(P.T・O.Tリテラシー)を実施した。 ・自宅で学習が捗らないと思われる学生について、登校できるよう工夫、支援を行った。 ・国家試験直前まで小グループ・個別に重点項目の補講を継続した。	・実習1期空きの学生を対象に基礎分野特別講義を行う。 ・個人のペースに任せず、毎週ごとに達成状況を認識させる。方法として宅ドリル便を利用。解剖・生理・運動学を中心とした小テストの実施、正答率の確認を行いスモールステップで進捗を確認する。
	卒業試験 ・卒業試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。	4	・過去の国家試験の出題範囲や難易度を分析したうえで、試験の作成依頼を行った。 ・学生の正答率の低い問題を除外して基準点を設定するなど、適正かつ公正に卒業判定を実施した。 ・卒業試験3回、再試験を1回行った。卒業試験の不合格者はPT学科1名、OT学科1名であった。	・卒業試験と国家試験結果の関連などから、卒業試験作成既定の振り返り・見直しを行う。 ・基準を見直した上で、卒業試験作成の依頼を7月には開始する。 ・卒業試験の作成時には、複数の教員が問題の精査を行う。
	卒業試験・実力試験 ・卒業試験・実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。	4	・毎月コンスタントに実力試験を実施。医歯薬出版模試3回、三輪出版模試2回と全国データ等活用できた。 ・試験後に解答・分野別正答率を提示し、見直しを行った。 ・面談時に分野別正答率を振り返り、学生自身の実力や進捗の確認を行った。	・実力試験・業者模試において、学生が勉強した範囲の正答率が高くなっているか確認、勉強の効果判定を行う。 ・毎週の課題を明確にした小テストを実施し進捗を確認する。
田中	臨床実習 ・「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。	4	【理学療法学科】 ・1年次臨床実習(1W);正規期間で対象の87名全員単位修得。 ・2年次臨床実習(地域福祉分野2W);正規期間で69名が単位修得。ハラスメントにより、途中中止し、年度末に継続実習を行った学生1名は0項目なしで単位修得。 ・3年次臨床実習(4W);評価の目的理解が不十分で、0項目があった1名の学生は2週間の追加実習で0項目なし、単位修得。施設都合で期間満了ができなかった1名は2週間の継続実習で0項目なし。入院治療のため、未実施であった1名は4週間の継続実習で0項目なし。正規実習と合わせて75名が単位修得。 ・4年次臨床実習(8週間2施設);臨床実習Vを途中中止の1名は退学希望により追加実習を実施せず、単位未修得。その他73名は実習後OSCEを実施し、単位修得となった。 【作業療法学科】 ・1年次見学実習(1日×6分野);36名。夏期に保育園実習終了。年度末に見学実習を5領域(身体・精神・介護・就労・発達領域)実施。 ・2年次基礎実習(介護老人保健施設2W);39名実施全員合格 ・3年次臨床実習;臨床実習Ⅰ・Ⅱ(3週間2施設);34名実施、33名合格(うち、D評価3名は追加実習にて合格。1名は継続実習未実施) ・4年時臨床実習;臨床実習Ⅲ・Ⅳ(8週間2施設) Ⅰ期(4/7~5/31)・実習後OSCE(6/3);27/41名実施、全員合格。(うち、1名は継続実習後、合格) Ⅱ期(6/9~8/2)・実習後OSCE(8/5);34/41名実施、全員合格。(うち、1名追加実習・1名継続実習後、合格) Ⅲ期(8/13~10/4)・実習後OSCE(10/6);21/41名実施、全員合格。(うち、1名継続実習後合格)	【理学療法学科】 ・協会の作成した「臨床実習の手引 第6版」に準じて本校が作成した「臨床実習の手引き」を見直し、活用しやすい形に改定した。2026年度から使用する。 ・4年次臨床実習前に実施した実習前OSCEの結果活用について、アンケート調査を検討する。 ・3・4年次臨床実習における実習指導者と実習生数について、協会推奨の1:2の導入を促進させる。 【作業療法学科】 ・生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校として、臨床実習におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)化もを行い、臨床実習の見える化、臨床実習施設との連携を継続的に取り組んでいきたい。
	臨床実習 ・臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。	4	【理学療法学科】 ・10月12日(日)評価者教員8名、患者様役外部PT7名で総合臨床実習後OSCEを実施した。 【作業療法学科】 ・MTDLPレジュメによる症例報告・作業療法介入OSCEを各期の終了後に実施した。各回、外部OT4名が参加。	【理学療法学科】 ・2026年度総合臨床実習前OSCE後に関して、振り返りを行う。 【作業療法学科】 ・MTDLPレジュメによる症例報告会及びOSCE(作業療法介入の一部実施)を各期終了後、実施予定。症例報告会には卒業生をアドバイザーとして招きより現場に近い意見交換を実施する。実施後の振り返りアンケート調査を学生及び外部OTに今年度も実施予定である。

留年・退学者防止	<ul style="list-style-type: none"> 退学率の目標を設定しているか。またその成果は十分か。 退学率の低減策が教職員に共有されているか。 進級・退学結果について検証・報告を行ったか。 	3	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期強化組は、1年16名、2年17名、3年15名を選出し、サポートを行った。 1年生(28期生)の後期再試験数は平均0.8であり、前期の平均1.5に対して半減。昨年度(27期生)の平均2.0に比して大きく減少している。 2年生(27期生)の後期再試験数の平均は2.4であり、前期の1.1に対しては倍増、昨年度(26期生)の0.3に対して8倍となった。新規科目が1科目増加したことが一要因と考える。 3年生(26期生)の後期再試験数の平均は0.4であり、前期の1.4に比べ減少。昨年度(25期生)1.1に対しても減少(全再試験未受験の学生1名を除く)。 再試不合格者については1年生5名(昨年度12名)で半減、2年生15名(昨年度1名)で大きく増加、3年生は2名(昨年度1名。2名のうち1名は全教科再試験未受験)である。2年生は再試科目数が多い学生が再試を落としていた。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期強化組は1年6名、2年6名を選出し、サポートを行った。 後期総合点の偏差値において、1年生(6名平均44.8)では、前期の平均実績が45.3、2年生(6名平均37.6)では、前期平均が45.7で、両学年とも、進級はしたがグループ平均偏差値は低迷した。個別では1年次3名。2年次1名は平均偏差値をプラスに転じる効果があった。強化組において、総合点偏差値が35以下の者は、1年生で0名、2年生で1名であった。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2026年度も強化組を継続。学科として強化組のシステムを構築するため、プロジェクトを立ち上げ、補講を含めたサポートを強化する。入学者の成績低下に対応した支援方法を検討し実行する。 学生面談情報はGaroonで記録し、共有する。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度も強化組対策を継続する。学生間での主体的な学びを促進するため、学年を超えた関りをつくり継続して実施していく。また、学科会議で随時情報共有するとともに学生面談情報はGaroonで記録し、共有する。
		3	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度は、進級率PT301/316で95.3%(2024年92.4%)、OT151/164で92.1%(2024年度92.1%)であった。 退学率はPT12/316で3.8%(2024年度5.8%)、OT9/164で5.5%(2024年度3.1%)、全体で4.4%となり、目標内に抑えることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不良による退学や留年の可能性がある学生の早期発見、早期フォローを行い、年度数値目標として退学率4%以内を目指す。
卒業生	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校HP・入学案内やInstagram、学校説明会等広報において紹介した。 現役理学・作業療法士の卒業生に各種講演やアドバイザー、学内実習などのOSCE場面で模擬患者役や評価者役を依頼した。 各専門分野の授業において、当該分野で活躍している卒業生をゲストスピーカーとして招き、在校生が将来像を具体化し目標設定の道標となるよう依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> PT・OTの職域を広げ国内外で活躍している卒業生を把握・紹介し、PT・OTを目指す高校生に夢を与える一助とする。 Zoom等を利用し、活躍する卒業生を紹介する企画を検討したい。

5. 学生支援

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
杉山	社会性 <ul style="list-style-type: none"> 挨拶や服装、遅刻など基本的な生活習慣の確立、社会性・公共性を育む指導・支援ができたか。 様々な教育活動において、社会人・医療人としての精神の育成に向けた支援ができたか。 学習状況実態調査で学生全体の生活習慣や学習環境を把握できたか。 実習で指摘された社会性(情意面)についてまとめ、その結果を支援に生かすことができたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 新入生に対し、初年次教育にて社会人・医療人としての資質の形成を支援した。 担任面談や授業等で担任や教科担当からの指導を行った。 現役理学・作業療法士の卒業生に各種講演やアドバイザー、学内実習などのOSCE場面で模擬患者役や評価者役を依頼した。 1・2年生については、基礎カリサーチの結果を分析し、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任面談や授業等で担任・教科担当からの指導を行う。 病院・地域での実習で、社会性を含めた情意面について、学生個々で明確となった課題への取り組みを担任や強化組担当教員が支援する。 各種評価バッテリーを使用し、その結果分析から、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行い、面談等の指導に生かす。
内山	行事 <ul style="list-style-type: none"> 学園祭などの活動において学生が主体的に活動し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの育成に向けた支援ができたか。 学校行事の充実に向けた支援ができたか。また、参加率が90%以上に到達したか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 10/25-10/26の学園祭では実行委員を中心にコミュニケーションをとりながら、安全かつ学生が主体的に運営することができた。 3/13に116名の卒業生に対して、午前中はリハ校にて卒業証書授与式を実施、午後はパシフィコ横浜にて岩崎学園合同卒業式、県民共済プラザビルにて謝恩会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 4/2に健康診断を実施済。 4/6にパシフィコ横浜にて、岩崎学園合同で開催され、リハ校は124名の入学生を迎えた。各校サークル代表が登壇し学校生活の楽しさなど説明、式後の会場にてクラブサークルの勧誘を行った。学校生活の説明も丁寧に実施し入学生の不安を解消することができた。 5月より学園祭実行委員中心に10/24、10/25に行われる学園祭の準備を進める予定である。岩崎学園全体の企画に対しても運営に携わり、他校の学生とも交流できるように実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> 効率よく行事が運営できるよう、全体の年間予定表・各行事のマニュアルの再調整を行い、業務の連携及び効率化を図れたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 行事担当のスタッフがどの行事にあっても対応できるよう、学園祭・卒業式関連のマニュアルの見直しをすすめた。 情報共有の為、定期的に会議を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 岩崎学園全体でのイベントについては、学内担当者が本部の流れや意向を把握し、学生全体が楽しめるようなイベント運営に努める。 各行事での新企画など、情報を収集し効率よく準備する。 各担当が業務内容を把握し、引継ぎが円滑に行えるようマニュアルの更新を随時進めていく。 新しいサークルを立ち上げたい学生を支援する。
田中	個別指導 <ul style="list-style-type: none"> 学生の情報交換を定期的に行い、心身の健康問題への適切な対応ができたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な面談を実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてスクールカウンセラー・岩崎職員(警察OB・高校校長OB)の利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。 週1回の学科会議にて早期発見・早期対応を心掛け、問題発生時には、適宜学生に関する情報交換を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き同様の方針で実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> 学生の面接・面談の記録があるか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 新入生より学生のプロフィール・緊急連絡先など、臨床実習の記録はクラス単位で保管している。スタログ(LMS)を活用して、成績や出欠状況を管理し、Garoonにて面談の記録を行った。セキュリティ対策をして教員間で情報を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急連絡先や臨床実習記録はクラス単位で保管し、面談記録はGaroonでの管理を徹底する。
	<ul style="list-style-type: none"> 就職・進路について相談できる担当者があるか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 担任、国試担当教員が主に対応にあたった。 岩崎学園iポータルに求人検索や就職における履歴書添削(AI活用)のプラットフォームがあり、学生は活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動がやや早まっているため、実習中の就活のルールを徹底し、適切に活動できるよう支援する。

瀬古	健康管理・防犯	・学生の健康診断を定期的に行っているか。	4	・年1回実施(4/1に実施済)	・年1回実施(4/2に実施済)
		・犯罪・薬物・消費トラブル等の指導を行っているか。	4	・新入生対象に薬物乱用防止教室を実施した(5/12実施済) ・随時、薬物乱用・詐欺・犯罪(闇バイト)・消費者トラブル等への注意喚起やポスター掲示を行った。	・新入生対象に薬物乱用防止教室を5/11に実施予定 ・随時、薬物乱用・詐欺・犯罪(闇バイト)・消費者トラブル等への注意喚起やポスター掲示を行い継続的に啓発を促す。
	就職支援	・就職指導支援体制整備 ・就職内定率目標(年内60%・年度内100%)の達成 ・学生の就職希望データベース化 ・既卒者対象求人情報データベース化	4	・学生向けの就職ガイダンスを3月の2回に続き6月に1回実施。 ・小論文対策講座(動画)を配信。 ・就職活動支援(履歴書・小論文添削、面接練習)を国試担当教員が実施。 ・就職の早期化に対応し、合同就職説明会を例年より2か月前倒しの6/6に実施。3クール実施し、83施設が参加。学生は1名につき6施設で説明を受けた。 ・求人情報はiポータルで配信するとともに、教員からSlackを利用し学生に共有。 ・学生は学外(臨床実習中)でもiポータルから求人情報を閲覧可能。また、iポータルから就職活動進捗報告を行っている。就職試験を受験した場合はその内容も登録するため次年度以降の学生に有効な情報となっている。 ・2025年度の実績は以下の通り。 年内内定率(12/末) ():2024年度内定率 PT:77.5% OT:72.1% 全体:75.6% (PT:65.0% OT:60.0% 全体:63.4%) 年度内内定率(3/31付) ():2024年度内定率 PT:100.0% OT:100.0% 全体:100.0% (PT:98.7% OT:97.1% 全体:98.2%)	・学生個人の国家試験対策状況を鑑みながら内定率年内70%、年度内100%を目指す。 ・6/2に4年生に対し、3回目の就職ガイダンスを実施予定。 ・6/6に合同就職説明会を実施予定。
	災害対策	・災害対策マニュアルを整備し、災害発生時の指導を行っているか。 ・万が一に備え、保険加入しているか。	4	・本校の災害時対応マニュアルを更新し、教職員に周知した。 ・学生の避難訓練を11月に実施。教職員向けの防災訓練を2026年3月に実施した。 ・学生避難訓練の際、学生・教職員に災害時の安否確認フォームを展開し、入力の実践を行った。 ・通学時、学内外の実習や活動においての賠償責任保険に加入している。	・災害時対応マニュアルの更新を行い、教職員に周知する。 ・新入生に災害時に展開する安否確認フォームについて学生生活の手引きをもとに案内する。
	経済援助・活動援助	・奨学金等の経済的支援があるか。 ・学費減免、学費分納制度があるか。	4	・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・神奈川県理学療法士及び作業療法士 修学資金の申込方法や施設による奨学金制度を紹介。 ・岩崎学園奨学生制度(給付型奨学金)を設けている。 ・高等教育修学支援新制度(2020年~)対象機関である。今年度より対象が拡充され多子世帯支援が含まれているため対応した。 ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。また、岩崎学園Gems(内部特待生)選抜も実施し、学費の減免を図っている。	・各種奨学金、学費減免について継続対応する。 ・新入生より学費は2期分納制度に変更となった。
	・保護者・保証人等への情報提供は行われているか。	4	・1~3年生の保護者・保証人等へ後期成績、出欠状況等をMyPaにて配信。 ・学校・学園からのお知らせ各種を保護者・保証人等へMyPaを利用し、随時配信した。	・新入生の保護者・保証人等をMyPaに登録する。 ・2025年度の成績、出欠状況が整い次第、MyPaで配信する。	
	・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。	4	・学園の取り組みとして、2024年度に続き2025年度卒業生もLINE登録を実施。学園・学校情報を提供するシステムを構築している。 ・2/28に同窓会を実施。OT卒業生を中心にご家族を含め103名が参加。	・学園祭時に卒業生の交流会を計画中。 ・3月に同窓会主催の勉強会を開催予定。	
	・クラブ活動を支援しているか。	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・パレーボール・バドミントンの活動に顧問をあて、補助金で支援している。 ・バスケットボールサークル(男・女)が8月末に全国大会(北海道)に出場。参加費の一部を岩崎学園が支援、教員2名が付き添いをした。また、体育大会の参加費等を学校で支援した。	・継続	

6. 教育環境

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
武田	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・継続
	・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・各ホームルーム教室があるフロアならびに6階のエレベータホールに学習環境完備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・継続
	校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	・校舎、設備は定期点検し、必要に応じて修理・刷新を実施。	・継続
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生にノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・スマートフォンなどを利用した国家試験対策教材、宅ドリル便(国家試験対策eラーニング)を使用。 ・解剖生理学デジタル教材としてVisible Body(3D人体解剖学習リソース)を使用。 ・スタログ(LMS)及びメディカルオンライン(医学文献の検索・閲覧)を導入し、オンライン学習の円滑な実施環境を整えている。	・継続
武田	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	4	・図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。	・継続
	・Web利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	4	・メディカルオンラインの利用については、概ね、適正に利用された。ダウンロードに関する注意喚起を継続した。 ・メディカルオンラインのパスワードは年度ごとの更新に変更した。 ・下半期(10月~3月)は413件/月の利用件数であった。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。 ・他の論文検索システムを検討を継続する。
	・指定規則に従う機材、実習室などは整備されているか。	4	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした。各実習室の機器、備品の整備を実施した。	・継続

備品	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・教室内、倉庫内を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。	・備品の不足、破損に迅速に対応する。経年劣化した機材を更新していく。
----	---	---	--	------------------------------------

7. 学生募集

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
渡邊	・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	4	・2026年度生は理学療法学科83名、作業療法学科41名の入学が確定し、両学科とも定員充足。高校ガイダンスや体験授業で、仕事の魅力・リハビリ職の職域の広がりを伝えた。リハビリ職を目指す高校生の裾野を広げる活動を実施した。	・国家試験の合格率高さやサポート体制を伝え、昨年度同様両学科とも定員確保を目指す。 ・「人の役に立ちたい」という気持ちの高校生や、既卒生に、リハビリの仕事の魅力や違いを甲斐と伝え、継続して裾野を広げる。
	・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・継続
	・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができているか。	4	・入学情報センターにて対応。 LINE、フリーアクセス0800-800-4508、メール (infoycr@iwasaki.ac.jp) ・希望に応じて個別相談実施。 ・相談しやすいツールとしてLINEによる個別相談も継続実施している。 ・放課後オープンキャンパスや入学に関する個別相談会を拡充した。	・継続
	・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・学校説明会を開催し、学校紹介・各学科紹介・入試説明・学費・奨学金説明、校舎案内・授業見学を実施。 ・個別相談では、受験可能な推薦制度、特待生制度等、個々の事情に合わせた情報提供を行っている。 ・3/28に、外部講師による講演「医療系進路選選びを徹底解説!」を開催。大学、4年生専門、3年生専門の特徴等について情報提供を行った。	・入試に対する不安の軽減を図るため、模擬試験(筆記・面接)の充実を図る。
	・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・在校生によるキャンパスライフ紹介も実施し、入学後の様子をイメージしやすいイベント運営を実施している。	・継続
	・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。	・継続
・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・プレップゼミ(入学前準備講座)では、「仲間づくり」や「医療職に求められるコミュニケーション」の強化を図った。特に、総合型選抜や学校推薦で早期に進路が確定した高校生がスムーズに本校入学へ移行できるよう、11月から毎月開催した。また、2026年度入学生は学科単位で実施した。	・継続	

8. 社会貢献

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
田中	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・職能団体の技能研修会等の開催や教室等の貸し出しを積極的に行っている。 ・高校等からの依頼による出張授業に参加した。	・引き続き同様の方針で実施する。
	・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・安全確保を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出している。 ・臨床実習指導者講習会やその他研修会などにも貸し出している。	・引き続き同様の方針で実施する。
田中	・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	以下に学生が参加した各種ボランティア活動(～9月末)を示す。 ・3/8 ラポール上大岡で行われましたエンジョイススポーツ遊び;1名 ・3/22 ラポール上大岡で行われたエンジョイススポーツ遊び;2名 ・3/8【フレームフットボール】多摩センター J-SOCIETY FOOTBALL PARK;2名 ・3/25 フレンズ戸塚で行われたドローンファイト大会のボランティア;4名 ・4/27 THE MEAT2025:3on3バスケ大会;3名 ・5/3 THE MEAT2025:U12 3x3大会;1名 ・5/10 車椅子バスケ体験会;2名 ・4/12・4/26・5/10・5/24 エンジョイススポーツ遊びのボランティア;6名 ・5/14・5/15・5/17・5/18ワールドトライアスロン横浜大会のボランティア;15名 ・7/10 2025横浜市地域共生ハッカソンの事前説明会;8名 ・6/28/・7/12エンジョイススポーツ遊びのボランティア;3名 ・7/12 横浜インクルーシブ水泳競技大会のボランティア;9名 ・7/29戸塚区地域自立支援協議会主催夏のゲーム大会;1名 ・8/9 AYA主催インクルーシブ運動フェスティバル;6名 ・9/13 神奈川VANGUARDSホーム開幕戦;5名 ・8/23・9/13エンジョイススポーツ遊びのボランティア;2名 ・9/5・9/17・9/18パラスポーツ実技講義のアシスタント;7名 ・八景島トライアスロンフェスティバル2025のボランティア;17名 ・8/20介護老人保健施設つくしの里夏祭;2名 ・9/29あすなろ秋祭りボランティア;1名 ・11/2 西区民まつり;4名 ・11/9 ナーシングピア横浜ハートフェスタ2025;7名 ・11/15・16 YOKOHAMA URBAN SPORTS FESTIVAL 2025;10名 ・10/11・25、11/8・22エンジョイススポーツ遊び;5名 ・10/18秦野バラスポーツフェスティバル;4名 ・10/26横浜マラソンのボランティア;14名 ・11/2ひらつか車いすバスケ大会;9名 ・11/8茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバル;1名 ・2/15 ハイム向台ボランティア;6名 ・2/14.28・3/14.28エンジョイススポーツあそび;5名 ・2/21 おだわらRフェス;4名 ・2/23 ブラインドサッカー 56名	・各種イベントを案内し、学生の主体的な参加を支援する。 ボランティア案内の窓口を集約し、管理体制を整備する。ボランティアに参加したOT学生のRリーグポイントの申請を行う。
	・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・つなぐカフェ;4回実施。のべ参加者75名、学生39名 ・体力測定会;2回実施。のべ参加者25名、学生39名	・つなぐカフェを2026年度前期は4/11、5/9、6/13、7/11土曜日に開催予定。 ・体力測定会を2026年度前期は4/25、7/4の土曜日に開催予定。

9. 法令等の遵守

担当	評価項目	評価	2025(令和7年)年度後期達成状況	2026(令和8年)年度前期に取り組むべき課題等
瀬古	・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・臨床実習施設の変更事項や新規施設について総務を通し、県へ申請した。 ・県より教員の登録について一部修正の連絡があり、資料作成し対応した。 ・ 学費変更、カリキュラムの一部改定があり、学則変更を県に申請している。	・新任教員1名、新非常勤講師1名、専任教員講習会修了者1名の県への申請書類一式を総務に提出し、県への登録を行う。 ・臨床実習施設について変更や新規施設について県への申請を継続する。
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化、「臨床実習の手引き」「学生募集要項」に記載している。 ・デジタルの個人資料はパスワードをかけ管理している。	・継続
	・自己点検・自己評価を定期的に行い、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、卒業生アンケート、教職員の自己評価等)となっている。2012年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施。	・継続 ・理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに従い別途、自己点検・自己評価を前期中に実施する。
	・リハビリテーション教育評価機構(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。	4	・リハビリテーション教育評価機構の認定ならびにWFOT評価については、次回受審が2026年であり、情報収集ならびに準備を進めている。	・6月までに資料を準備し、リハ教育評価機構に送付予定。その後、対面での調査が入り、年度末までに結果が通知される予定である。
	・自己評価結果を公開しているか。	4	・「自己評価」ならびに「自己点検、自己評価」の結果はホームページで公開している。	・継続